

ホルマリン固定パラフィン包埋肝生検組織における HCV関連抗原の検出法の確立

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/15293

学位授与番号	医博乙第1290号
学位授与年月日	平成6年4月20日
氏名	足立浩司
学位論文題目	ホルマリン固定パラフィン包埋肝生検組織におけるHCV関連抗原の検出法の確立

論文審査委員	主査教授	小林健一
	副査教授	中沼安二
	教授	中西功夫
	教授	松田保

内容の要旨及び審査の結果の要旨

C型肝炎ウイルス（以下HCV）がクローニングされ、C-100抗体をはじめとする抗体系の導入により、C型肝炎の診断がなされているようになった。しかし、C型肝炎においてウイルスの存在を示す有用な血中ウイルスマーカーがなく、ウイルスの存在や増殖と肝炎の関連は明らかでない。そこで、形態がよく保存され、これまでの多数例の保存検体について検討可能なホルマリン固定パラフィン包埋肝組織を用いてHCV関連抗原を検出するための条件を確立し、その表出と病態との関連について検討し、以下の知見を得た。

1. 免疫組織染色は酵素抗体間接法（Streptavidin-Biotin法）で行い、反応条件を検討した。その結果、1次抗体として、HCV-coreおよびenvelope領域に対するポリクローナル抗体をcore領域に対する抗体は800倍に、envelope領域に対する抗体は400倍に希釈し、内因性アビジンビオチンをブロックした標本と4℃でovernight反応させることにより、パラフィン包埋肝組織を用いてもHCV-coreおよびenvelope抗原の良好な検出が可能であった。
2. C型慢性肝疾患における表出率はcore抗原44%、envelope抗原19%であった。両抗原陽性例ではその分布はほぼ一致したもののcore抗原陽性細胞に比べenvelope抗原陽性細胞数は少なかった。染色結果では、coreおよびenvelope抗原とも胆管上皮や類洞壁細胞には認めず、肝細胞質にびまん性、細顆粒状の陽性構造として認められた。このことから、C型肝炎ウイルスは肝細胞質内でウイルスの構造蛋白を産生しているものと思われた。陽性細胞は肝小葉内に散在性に存在し、肝小葉内の区域およびリンパ球浸潤や肝細胞壊死部位との関連は明らかでなかった。また、病態別による表出率および表出の有無による臨床生化学的検査値の間に差は認められなかった。このことは、今回検討したウイルス抗原が、肝炎の病勢や病態と必ずしも一致しないことを示唆するものであった。したがって、ウイルスの存在様式と肝炎との関連では今後更にIFN投与前後など経時的検討や免疫系の関与を含めた検討が必要と考えられた。

以上、本研究はC型慢性肝疾患の肝組織におけるHCV関連抗原の検出とその意義を検討したものであり、C型肝炎ウイルスの存在様式を明らかにし、ウイルス抗原系と肝炎との関連を検討した意味において、価値ある労作と認められた。